

News Release

2018年11月22日
N I T E (ナイト)
独立行政法人製品評価技術基盤機構
北海道支所

暖房器具の事故により5年間で107名死亡 ～誤使用・不注意による火災を防ぎましょう～

1. 事故の発生状況

北海道では、暖房器具の事故は、2013年度から2017年度までの5年間に合計85件ありました。

(1) 年度別事故発生件数

年度別事故発生件数を表1に示します。

表1 年度別事故発生件数 (2013～2017年度)

発生年度	合計
2013年度	22
2014年度	13
2015年度	18
2016年度	15
2017年度	17
合 計	85

(2) 被害状況別事故発生件数

被害状況別事故発生件数を表2に示します。

表2 被害状況別事故発生件数 (2013～2017年度) ※1

被害状況		合計
人的被害	死亡	7
	重傷	5
	軽傷	6
物的被害	拡大被害	48
	製品破損	19
被害なし		0
合 計		85

(※1) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 主な事故事例

(1) 石油ファンヒーター

○2016年3月（北海道、死亡、使用期間不明）

事故内容：石油ファンヒーター付近から出火して、住宅を全焼し、家人1人が死亡した。

事故原因：当該製品のカートリッジタンク内に残留していた油からガソリン成分が検出されたことから、被害者がガソリンを誤給油したため、使用時の燃焼熱によりカートリッジタンクの内圧が上昇してガソリンが押し出され、油受け皿から溢れたガソリンに引火して、火災に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書に「ガソリンなどの揮発性の高い油は絶対に使用しないでください。火災の原因になります」旨、記載されている。

(2) 電気ストーブ

○2018年1月（北海道、拡大被害、使用期間約3年）

事故内容：使用中の電気ストーブ付近から出火し、周辺を焼損した。

事故原因：当該製品の電気部品に出火の痕跡は認められず、本体上部にカレンダーの紙片が付着していたことから、当該製品の上にカレンダーが落下して覆ったため、焼損したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「燃えやすい物の近くで使用しない。火災の原因になる。」旨、記載されている。

3. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITEのロゴ」としてください。

(本件に関する問い合わせ先)

〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目

札幌第1合同庁舎 4階

独立行政法人製品評価技術基盤機構 北海道支所

担当者:大井、下川

電話:011-709-2324